

令和2年度第2回埼玉県高齢者支援計画推進会議 会議録

日時：令和2年11月19日（木）

質疑応答

発言者	発言要旨
富家委員	<p>特別養護老人ホームの整備目標は今、計算中だという説明をいただきましたが、いつぐらいになるのか教えていただければと思います。</p> <p>また、介護医療院に関しても全国的に転換が進んでいない現状があって、その原因としては転換の時に出す県独自の資料、県によりますが特に東京都は新規開業と同じぐらいの資料を作らないと介護医療院ができないという現状があるようで、それによって転換が進んでいないようでございます。埼玉県がそうだということではないのですが、転換を進めていくというように支援計画の素案にはありますので、簡素化を実務レベルで期待したいと思っております。</p> <p>素案の51ページに地域包括支援センターの機能強化とありますが、たとえば私のふじみ野市の認知症初期集中支援チームでは、主に地域包括支援センターのスタッフがアウトリーチしているのが現状です。本来のメンバーにはなれず、手当が出ない状況で、業務外で認知症初期集中支援チームの仕事をしていただいています。オレンジカフェにおいても、補助は実費のみで運営をしているとこのことで実質ボランティアでやってくれている状況です。機能強化ということであれば、研修の実施だけではなく、実務に対する費用面での強化についてもご検討いただきたいと思っております。</p>
高齢者福祉課	<p>特別養護老人ホーム等の施設整備目標の時期でございます。市町村のサービス見込み量を計算しているところでございまして、国から12月に見込み量を出してほしいと言われております。同時に県では市町村に整備予定を伺い、サービス見込み量と整合性を合わせながら、時期的には1月か2月に整備目標を出させていただく予定です。ただ、介護報酬の改定も今年度に予定をされてい</p>

富家委員	<p>るところもございまして、最終的には3月に各市町村が見込み量を固めることになっておりますので、2月に目標値を定める考えでございまして。</p> <p>2点目の介護医療院の関係ですが、県としましては介護医療院の転換を促していきたいと思っております。提出書類を見極めて対応していきたいと考えております。</p> <p>20年間やっている医療法人が20年間分の議事録を持ってこいという都道府県もあるようです。病院側からするとベッド変更と同じようなイメージで考えているのですが、都道府県からすると新規開設になるようですが、四角四面の対応ではなく、是非、柔軟な対応をお願いしたいと思います。</p>
高齢者福祉課	<p>ご指摘を踏まえ対応していきたいと思っております。</p>
地域包括ケア課	<p>続きまして、ご質問のうち地域包括支援センターの機能強化について、初期支援チームですが市町村によって形態が様々であると確認をしております。交付金を使えることになっておりますので、今後、市町村と協議をしながら対応していきたいと考えております。オレンジカフェも交付金の対象となっております。地域包括でもやっておりますし、市町村がやっておりますので実態の把握に努めて、調整をしていきたいと考えております。</p>
富家委員	<p>ボランティアが担っている部分が大きいことを確認いただければと思います。</p>

<p>地域包括 ケア課</p>	<p>市町村と意見交換し実情把握に努めて、今後の対策等を一緒に考えてまいります。</p>
<p>議長</p>	<p>添付書類につきましては、国が削減の方向で議論を進めておりますし、埼玉県でも申請の部分で知事からも削減を検討するように言われておりますので考えていきたいと思えます。</p>
<p>神戸委員</p>	<p>高齢者支援計画の骨子11ページの介護職員の確保・定着・イメージアップにつきまして、県と一緒にしっかり応援プロジェクトとか、様々なことをやりながら、介護人材の発掘、そして定着ということやっていますが、様々な観点から是非ともこの介護について、職員のあり方をぜひ検討していただきたい。特に公立高校とか中学校といったところから、介護の仕事に魅力があるんだということを何らかの形で子供たちに手だてるような手段を講じられることが非常に有効かと思えますので、是非ともそういうところも考慮していただきたいということが一点と、10ページの特別養護老人ホーム等の整備のところ、コロナの関係や災害の関係で一法人一施設に頼るのは非常に難しくなっていくと思えます。今はまだ50床の特養もございまして、増床させて、その地域からの力を更に大きくして、2号棟を立てて職員を連携させるなど様々な方向から既存法人を有効活用したような形の整備というようものを考えていただくとありがたいと思えます。</p>
<p>高齢者福祉課</p>	<p>昨年からは介護人材に関しまして、関係機関・関係団体に協力いただき、検討する場を設けております。検討の場でも、やはり子供たちに介護に関心を持ってもらうには先生の力が大きいと考えております。先生が知らないと思われたいと思うので、それを踏まえてPRについても学校へのアプローチも考えてまいります。</p>

馬袋委員	<p>続いて既存法人を活用した整備につきましては、既存施設には歴史やノウハウがございますから、既存法人にも力を入れながら整備に努めてまいります。</p> <p>骨子案の中で資料3の2ページ目を見てみると、85歳以上の方が多くなることに伴って介護人材をどうするかということが鍵になると思われませんが、第8期計画は2040年に向けてという言葉を使うのであれば2040年に向けて介護人材の対応はどうかというのを書いておかないと、これだけ伸びる高齢者、特に後期高齢者の方々に対する介護人材ということを記載すべきだと思います。</p> <p>それからもう1点。下のグラフを見ると高齢者人口は伸びていきますが、65歳から74歳、75歳の年齢の方々はある一定の層でずっと推移している。この人口の年齢の方々が社会にどのように参加をするかということ、いかにつくるかということが、この大きな高齢化の中で、目指すべきポイントじゃないかなと思っています。私も介護事業をやって多くの人材を雇用してきましたけれども、やはりなかなか若い人が入っていただけない。介護に魅力がないのではなくて、魅力ある素晴らしい仕事です。ただ、その魅力を今の若い子たちに伝えるということもありますが、60代以降のシニア層がこんな面白い仕事はないじゃないかっていうようなことを張り切ってやっていただくと、その孫たちが面白いということになる。是非、この一番人口の幅があるゾーンに機会と学びと、この高齢化の対応策ということで何かそういう政策を打たれるべきではないかなと思っています。これは意見です。</p> <p>それから、質問ですけれども、特養の整備があります。しかし、85歳以上の方が本当に特養だけでいいんですかという話が出てきております。当然必要だと思いますけど、やはり、民間を含めたサービス付き高齢者向け住宅だけではなくて高齢者が安心して住める住宅政策というのがどのように書かれるのかということもありますし、特に埼玉の16号線沿いから南側へ東京に向けたエ</p>
------	---

<p>高齢者福祉課</p>	<p>リアで東京に通勤をしていた人たちの住宅が、年齢が高くなったから住宅を空き家するのか、息子たちが住まないといった住宅をどう活用するのか、これから増えるであろうそういった住宅を踏まえた住まいというものをどのような政策としていくのか、それは、各保険者がどのように地域で住まいとサービスを組み込むかというところだと思うんですね。ぜひそんなところを県から支援していただいて、保険者の皆さんの計画に住まいについてどのようにお考えで県から情報とか政策を相談される予定なのかをお伺いしたいと思います。あと、認知症施策のところでございます。</p> <p>認知症施策の中で、若年性認知症の施策の部分ですけれども、お願いをしておきたいのは、キャラバンメイトとか様々な認知症の講座とかをやっていますが、受講して、登録された後の学びの更新がない。何万人育てましたというよりは、何万人育った人たちが次に勉強するような内容、例えばアプリで登録していただいて、最新の認知症の状況とか、また地域でこんなことを行っているで参加いただけないですかとか、参加された方がそういうアプリに登録していただいて呼びかける。そういうことも含めた上の政策としていただければと思います。長くなりましたがありがとうございました。</p> <p>まずは、今後2040年を見据えた形で介護人材を考えたほうがいいのかということですが、おっしゃるとおり人材はすぐに確保できるはないので、考えていかなければいけないと思っています。</p> <p>この計画は3年計画ですので目標値は3年分がいいと思いますが、今後を見据えて何をやっていくのかは書いたほうがいいと思っています。個人的には人の確保だけではなく、生産性を向上していくことが重要だと思っているので今後を見据えて考えていきたいと思っています。</p> <p>2点目の高齢者の活用ですが、働く意欲がある高齢者について、当課ではそのような方に介護の仕事に関する研修を実施して、そのまま就職できるような</p>
---------------	--

<p>地域包括 ケア課</p>	<p>事業をやっておりまして、かなり成績が上がっています。昨年は200人ぐらいの方が高齢者の方の介護に就いております。このような取り組みを進めていきたいと考えております。65歳以上の方を高齢者ということで括るのではなく、活躍できる方は活躍していただきたいと思います。</p> <p>住まいの関係ですが、資料6 素案の57ページに高齢者の住まいに関する項目を記載しております。この項目は住宅課が所管しておりますが、住宅セーフティネット法では高齢者の入居を拒まないという制度がありますので、このような制度を使って活用するなどの取組を記載しております。総合的に高齢者の住まいについて考えていきたいと思っております。</p> <p>認知症サポーター養成講座について、もう一回受講することは可能でございまして再受講される方もございます。市町村によっては職員が養成講座に参加していただくというところもございます。埼玉県内ではサポーターを53万人養成しておりますが、活用方法を課題として考えておりまして、チームオレンジの構築に向けて、認知症サポーターを活用していく、例えばチームオレンジの活動のためにステップアップ講座を実施するなど、更に知識を深めていただき、実際の支援に必要なノウハウを得ていただくようなことを想定しております。</p> <p>それからアプリへの登録について提案していただきましたので、検討させていただきます。受講者の登録を呼びかけている市もありますので、確認してまいります。</p>
<p>議長</p>	<p>介護人材の2040年のところですが、県では国の需給推計しか持っていないので、2040年をどのように表記できるか検討させていただきたいと思っております。</p>

<p>民谷委員</p>	<p>計画をどのように実行していくかということについては、市町村がどのように動くかが大切なことだと思います。具体的にどのように市町村を支援していくかというところを少し踏み込んだ方がいいのかなと思っております。深谷市では包括支援センターを担当していた職員が変わったとたんに、地域包括支援センターの業務が増えたという不満がありましたが、実際には通いの場とかがどんどんできて、住民にとってはとても良かったと思っています。</p> <p>施設とか介護人材などが話題に出ますけれども、それは介護保険料が増えていくというのが後ろにあるということも忘れてはいけないことだと思っています。私も70歳ですが、70歳でも動ける人が地域の人を支えるということで、計画の中に共生社会ということが出ていますが、地域の人が要介護高齢者支えなければ、介護保険制度がもたないのではないかと思います。特養とかたくさんできると、地元の人はいいのができてよかったねと言っていますが、私は財務経験が長かったこともあり、また介護保険料が上がるのではないかとこのことを考えてしまいます。お金のかからないマンパワーをどのように活かすかということが大切で、県が市町村をどう動かすかということも計画を実行する上で大事なことはないかと考えます。</p> <p>「みんないつかは年をとる」という県が作成した11冊からなる本は、すごくいい本ですが、あまり読まれていないように感じています。話はそれますが、私は今もママさんバレーの監督をしまして、ママさんの親が最近ぼけちゃってという話や、施設に入れちゃおうかという話が出たときに、これ読んでみなどその本を渡しています。読んでみると認識が変わったという話になっています。制度の上の方で動くのではなくて、末端の人がどう変わるかというのが一番大事だと思います。認知症サポーター研修も受講しましたが、自分がどう動いたかによって社会に貢献できる、そのように認識できるようなサポーターの養成が必要だと思いますし、サポーターの人がどれくらいこの本を読んでもらっているのかなとも思います。県民全員に配るのは難しいと思いますが、貸</p>
-------------	--

議長	<p>し借りで何十人かに見てもらえば、十分に価値があるかなと思います。</p> <p>市町村の支援については項目を作って入れた方がよろしいでしょうか。</p>
民谷委員	<p>文章でどうこうという形式的なことではなくて、計画を実行していく中で、考えていただければ良いと思っています。</p>
地域包括 ケア課	<p>漫画本についてお褒めいただきありがとうございます。11巻、計22万冊印刷して、市町村を通じて配布しております。併せて増刷も予定しております。増刷の配布数も市町村に照会中でございます。今後も機会を通じまして周知を図ってまいります。</p>
宮崎委員	<p>小川町で認知症サポート医をさせていただいております。、小川町の取組で、初期集中支援チームと物忘れ相談会をやっております。初期集中支援チームだとチーム医である私の施設だけじゃなくいろいろな施設からスタッフを集めていますので、チームが発動するとすごく時間などの調整が大変になってしまうので、物忘れ相談で支援チームの前に取り組もうという形をとっています。ですが、初期支援チームが、1回も動いていないとなるとどうなんだろうかっていうお話もありまして、評価方法をもう少し検討していただけないかと思いますし、認知症のサポーター養成講座とか、カフェがあるとかっていうだけではなくて、いろいろな評価方法があると思うんですが、市町村によって対策方法があると思しますので、そちらもちょっと鑑みていただければと思いますし、数だけではないっていうところを少し考えていただきたいなと思います。</p> <p>あと、若年性認知症カフェは、高齢者の認知症の方が多すぎて、私の市町村ではなかなかできないんじゃないかと思っているので、数はわかるんですが地域性が出てしまうこともご承知いただきたいと思っております。</p>

	<p>あと、先ほど言っていたアプリについてですが、私はサポーター養成講座とキャリアアップ講座をやらせていただいたんですが、そのあと何したらいいのと言われますので、そういったところももう少し、進めていっていただけたら嬉しいかなと思っております。</p> <p>初期支援チームは市町村によって活動は様々でございます。さいたま市は数も多く、個別にやってると聞いております。県では今年の2月に先進事例を紹介するために初期支援チームを集めた研修をやる予定でしたが、コロナウイルスの影響で中止しております。引き続き、先進事例を紹介するなど、動きやすいチーム作りを心がけていただきたいと思いますと考えております。</p> <p>若年性認知症カフェですが、県内では若年性認知症の方が今2200人いるとされております。高齢者に比べ人数が少ないため、市町村職員が把握していないところもあると思います。大規模ではなくて1人、2人から初めるカフェもあると思いますので地道に進めていただきたいと思います。</p> <p>それから、サポーターのキャリアアップですが、チームオレンジの取組につきまして、質を上げるための取組をやっていきたいと考えておりました、チームオレンジの構築の中でも、認知症サポーターの方々のキャリアアップの取組を進めていきたいと考えております。</p>
地域包括 ケア課	<p>若年性のカフェは地域性があると思いますので、開設しているところを広報していただいて、いろいろな地域から参加できるようにしていただければ、助かります。</p>
宮崎委員	<p>実施団体の了承をいただいて、考えていきたいと思っております。北浦和のリンクカフェがありますけれども、結構遠くからも通っていらっしゃるの、電車の乗り換え以外は一人で行ける方とかいらっしゃいますが、距離があると通えない方もいらっしゃると思っておりますので、ご指摘について検討していきたいと思いま</p>

富家委員	<p>す。</p> <p>素案の77ページの外国人人材について4つの外国人人材の活用の中で、特定技能と技能実習があるのはご存じだと思いますが、それを入れていただくことはできないでしょうかというのと、入れていただかなくてもいいのですが、EPAはいろいろなところからお金が出るので、県から補助をいただけるとありがたいですが、特定技能は4年間で、日本人の介護の方を雇うより200万余計にかかるということになっております。是非、こちらの方に補助を検討していただければと思っています。</p> <p>技能実習の方は覚えていませんが、技能実習も同じように経費がかかると考えておりますので77ページに入れていただけるとありがたいと思います。</p>
高齢者福祉課	<p>167番が特定技能と技能実習の補助の記載になります。特定技能と技能実習は受け入れた施設がその方たちに補助をした場合に一部を県が補助しております。昨年度から始まった制度でありますので、ブラッシュアップしながら進めていきたいと考えております。</p>
富家委員	<p>167番はEPAと在留資格だけではないと。</p>
高齢者福祉課	<p>167番は特定技能と技能実習、それと留学生の補助となります。留学生の方は日本語学校に通われる留学生が対象となります。</p>
議長	<p>表記が分かりづらいので工夫いたします。</p>
林委員	<p>介護保険施設等の整備のうち(3)の感染症対策についてですが、県では看護協会からの認定看護師派遣事業を行っていますが、コロナ禍において介護施</p>

	<p>設の方から来ないでという話がありました。計画の中には備蓄の供給であったり、クラスターになった施設への専門家の派遣を事業としてやられているところですが、予防に対して力を入れていかなければならないと思います。県では研修とかをやっていますけれども、介護施設は感染症の専門家を置いていませんので、予防に力を入れるようなアピールをしていただけるとありがたいと思っています。</p>
<p>高齢者福祉課</p>	<p>専門家の方にご指導いただけるのであれば、施設も助かると思っております。私が聞いた中では来てほしいというところが多かったものですから、来ていただけるのであれば助かると思っています。福祉施設の数が多いため、派遣の希望が多くなることも想定されます。どのようにプランニングしていけばよいか相談させていただきながら考えてまいります。</p>
<p>議長</p>	<p>本日素案を初めてお示しいたしました。本来であれば事前にお配りするところですが、それができず申し訳ありませんでした。このため、ご意見があればひな型をお配りしておりますので、ご意見がありましたら、お送りいただければありがたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p>